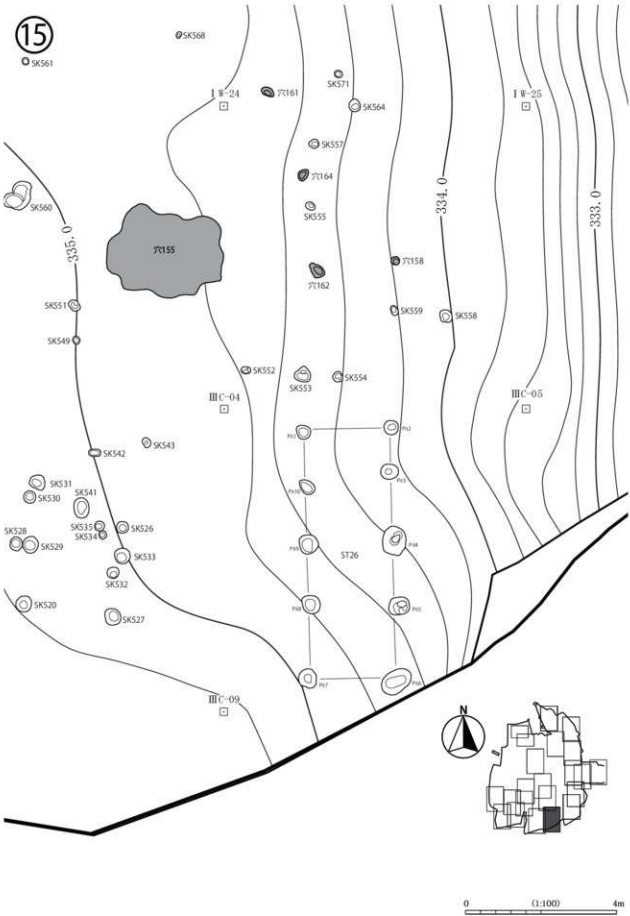
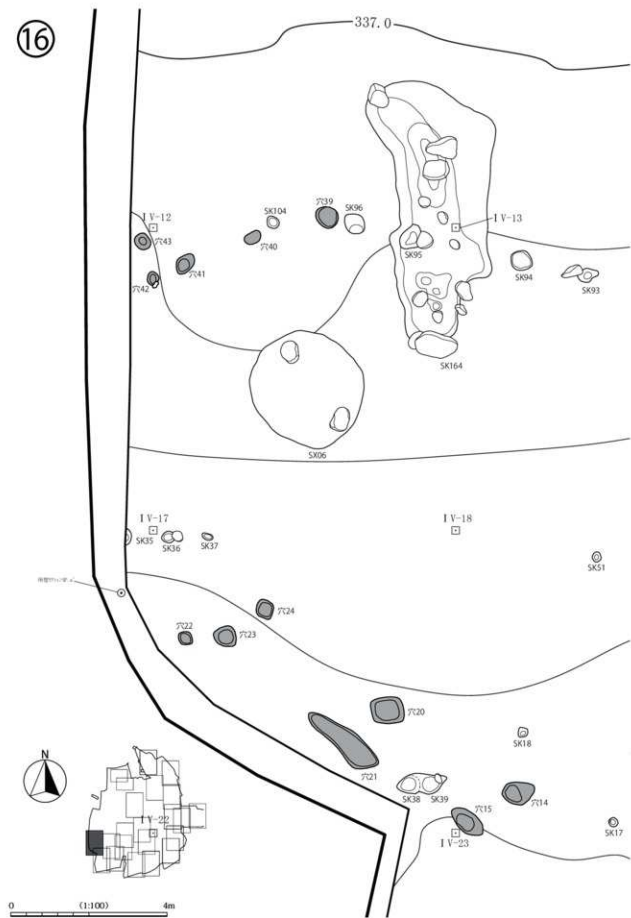


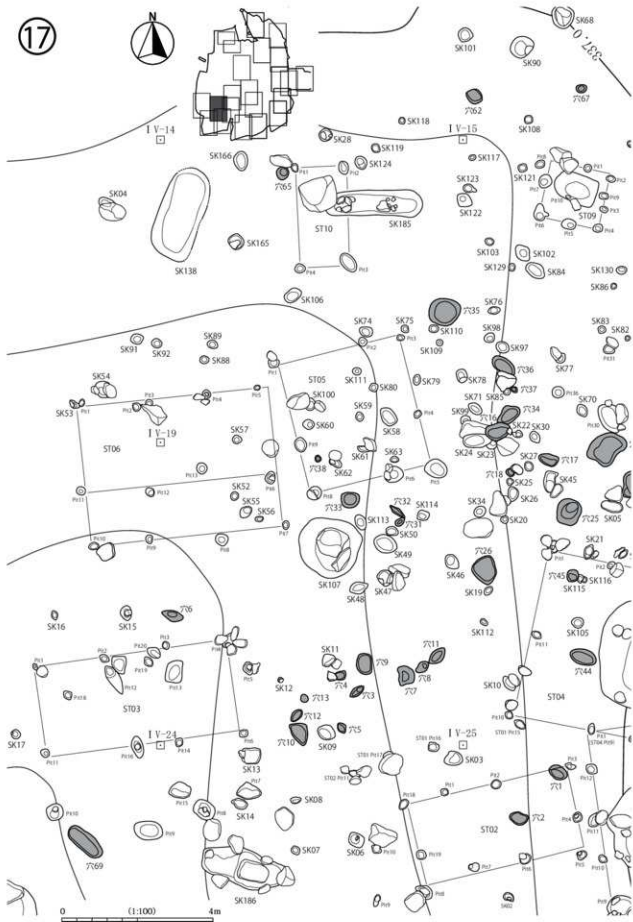
第25図 割付図



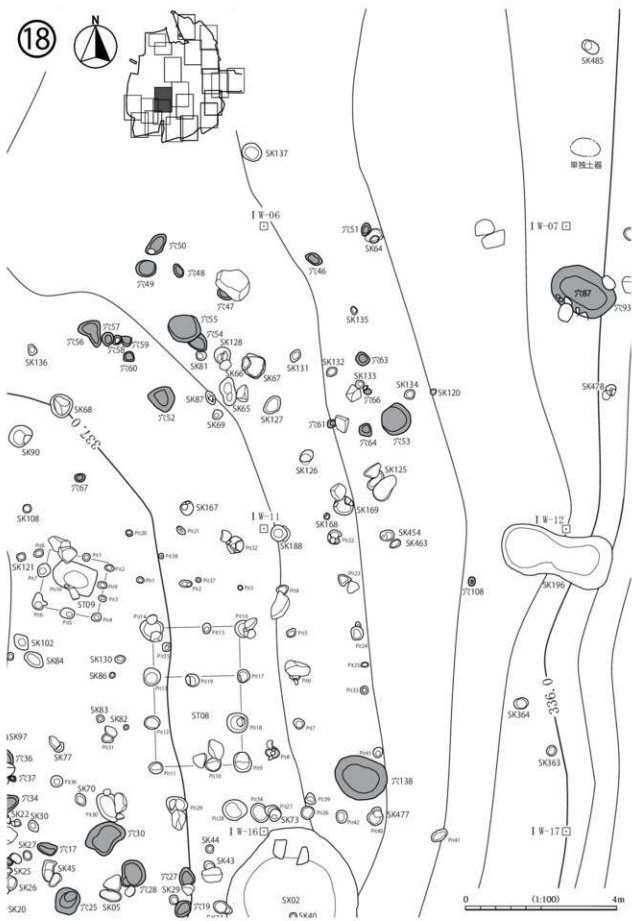
第26図 割付図⑤



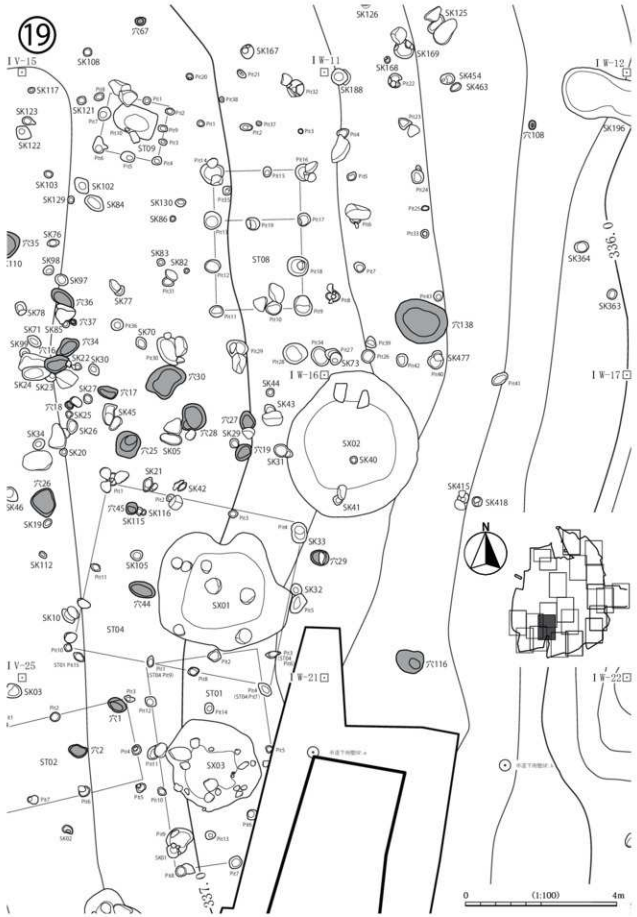
第27図 割付図⑥



第28図 割付図①



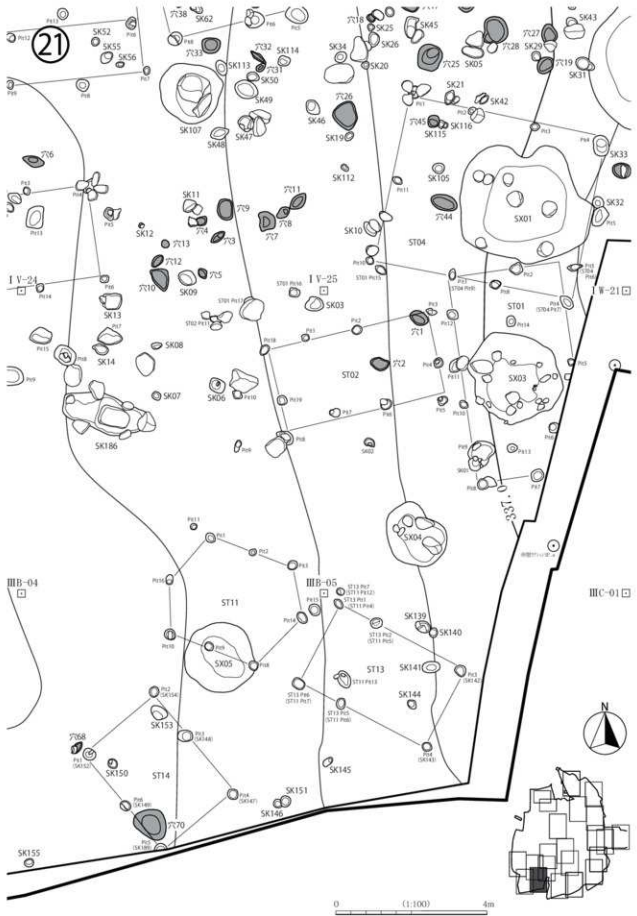
第29図 割付図



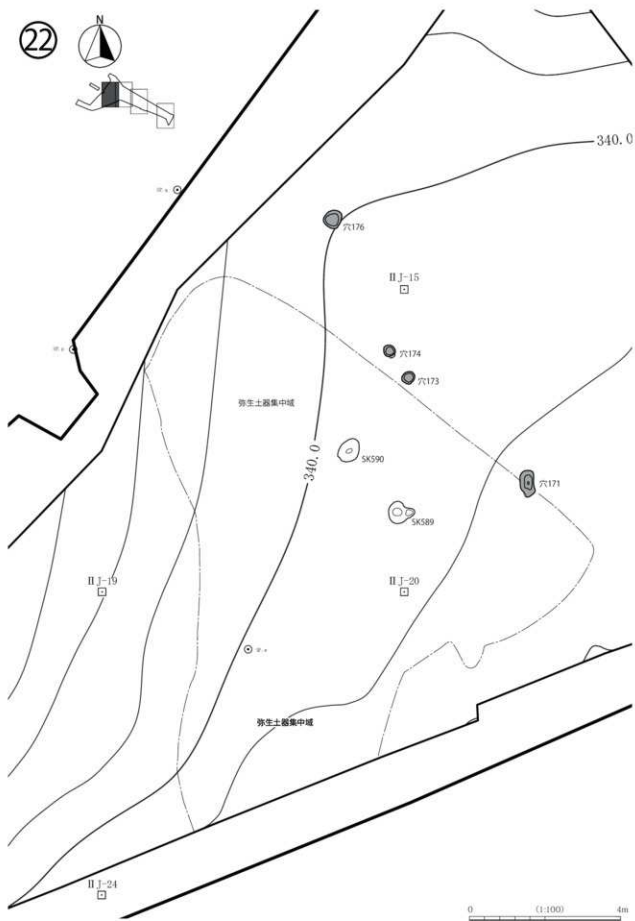
第30図 割付図②



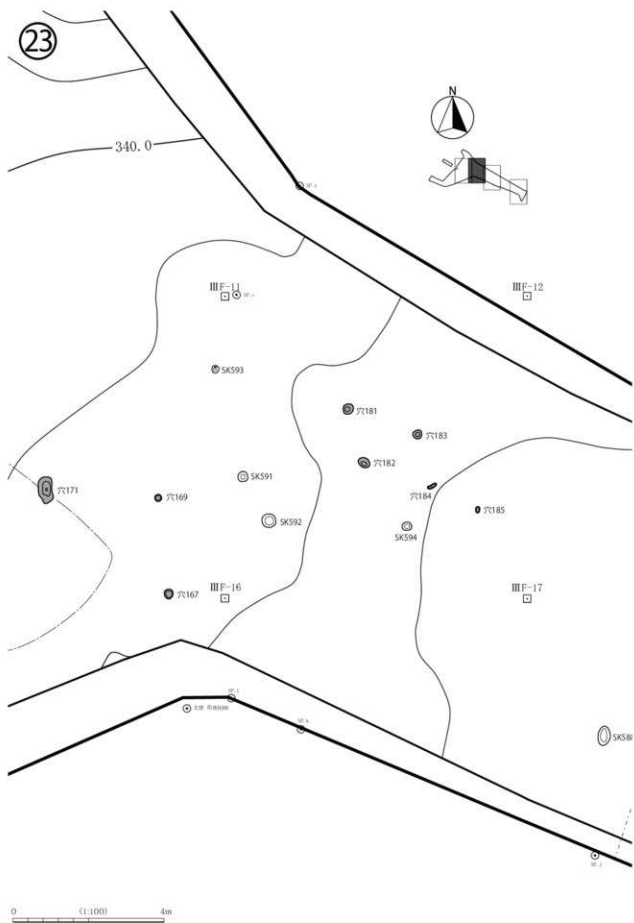
第31図 割付図②



第32図 割付図②

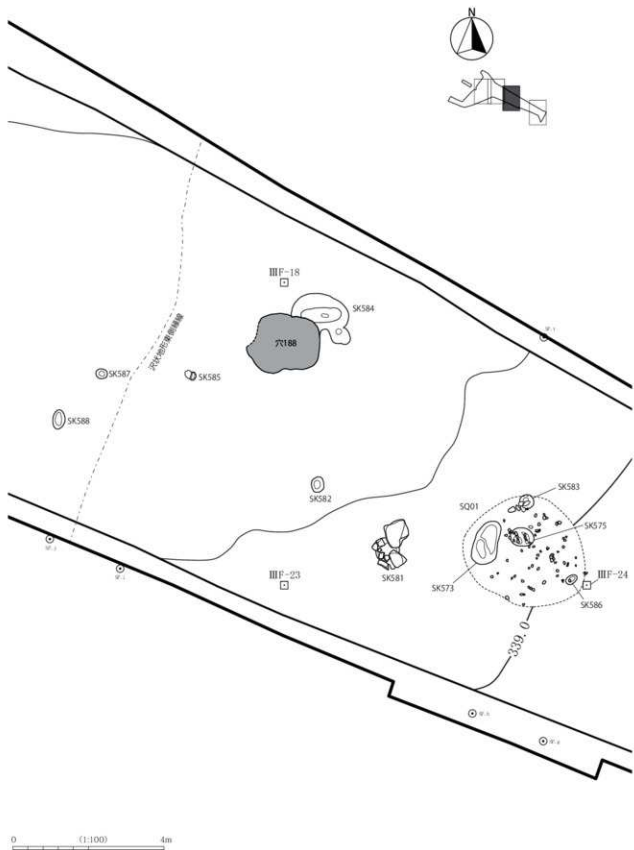


第33図 割付図②



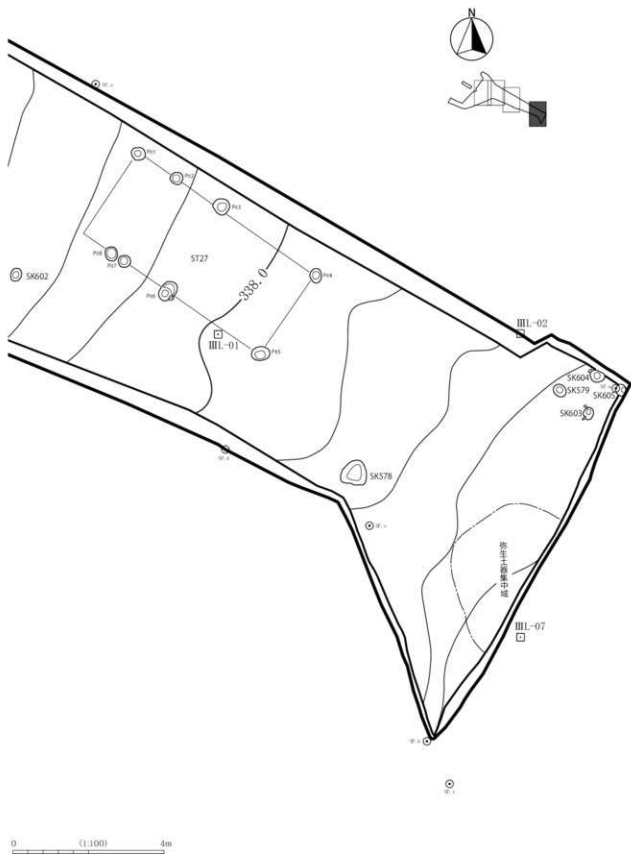
第34図 割付図②

24



第35図 割付図㉔

25



第36図 割付図

4 基本層序 (第37～41図、PL3)

調査区が南北に分断され、北側の調査区も東西に大きく傾斜しているため、調査区間の土層の連続的な対比ができなかった部分もある。遺跡全体では、基本的にはI層～VI層の基本層序が確認できる(第37図)。I a層が盛土層、I b層が耕作土層、II層が旧耕作土層、III a・III b層が粘土質シルト層、IV・IV a層が粘土～シルト層、IV b層が粘土質シルト～シルト質砂層、V層が粘土質シルト～粘土層、VI層が礫層または砂層である。III a・III b・一部IV a層が縄文～平安時代の遺物包含層、V層が地山層である。調査区により、各土層の色調や土質が一樣ではなく、基本土層の細分に各調査区で差が生じている。そこで、東区中央シ地点(第37・38図)を基本層序とし、調査区ごとに複数地点の土層柱状図を第38～41図に示した。それぞれの地点ごとに固有の層名が付けられているが、基本層序に対応すると考えられる層である場合には基本層序を()で右側に表示した。なお、基本層序とほぼ同一層の場合はそのまま表示し、内容が異なる部分があるものは注記に記した。土層断面図は、第37図で示す地点を南側ないしは東側から見た図となっている。

各層の内容は以下のとおりである。

I a層：暗オリーブ褐色 (Hue25Y3/3) 粘土。盛土層。西区にはなく、南区は西側以外にない。近年耕作が行なわれた地区は現耕作土 (I b層) が上部にみられる。

I b層：黒色 (Hue10YR2/1)～黒褐色 (Hue10YR2/2) 砂質シルト。耕作土層。

II層：黒色 (Hue10YR2/1)～黒褐色 (Hue10YR2/2) 粘土質シルト。旧耕作土層。上層からの耕作により本層が消滅した箇所が各地区でみられる。

III a層：黒色 (Hue10YR1.7/1) 粘土質シルト。縄文～平安時代の遺物包含層。西区では層が混在しIII a～III b層とし、東区北側・東側・南側、南区北側・東側では分層できずIII層とした。また本層が良好に残存するのは、東区中央と南区北側・南側である。

III b層：黒褐色 (Hue10YR2/2) 粘土質シルト。縄文～古墳時代の遺物包含層。一部、平安時代の遺構検出面。西区で明確でないほかは、調査区全体にみられる。

IV a層：暗褐色 (Hue10YR3/4) 粘土～砂質シルト (崩落土)。縄文～古墳時代の遺構検出面。一部、縄文時代の遺物包含層。西区、東区東側ではIV層としてまとめた。また南区で3c層とした層は、本層の上部に対応する。

IV b層：暗褐色 (Hue10YR3/3～3/4) 粘土質シルト～シルト質砂。III～V層の漸移層。

V層：褐色 (Hue10YR4/4～4/6) 粘土質シルト～粘土。地山土。東区東側では、下層が砂質となりV a層とV b層に分層した。

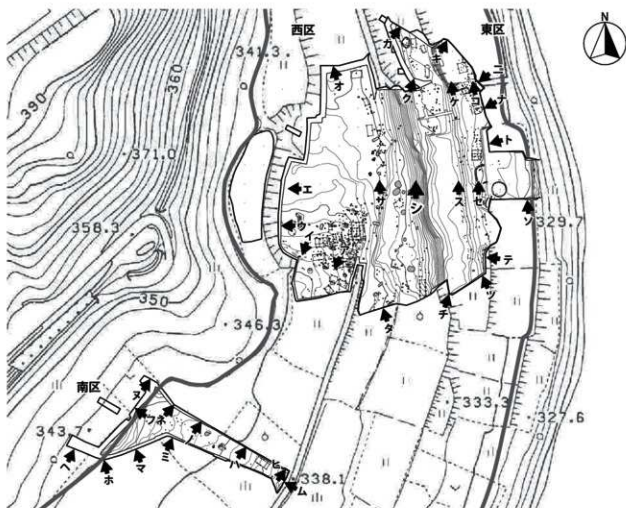
VI層：暗褐色 (Hue10YR3/4)～にぶい黄褐色 (Hue10YR4/3) 礫層または砂層。V層下部で互層に堆積。

註

- 2015 (平成27)年7月15日、桐原健に確認。また、滝路地区からは昭和15年頃の水田開墾時に大型碇石斧が出土している(第10図-写真)。
- 桐原健は、出土した弥生土器を栗林Ⅲ類(桐原1963)としている。

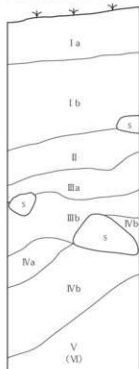
引用・参考文献

- 神田五六1963『豊田村の古代文化』『豊田村誌』豊田村誌刊行会：243-269
 桐原健1963『栗林式土器の再検討』『考古学雑誌』49-3：19-34
 桐原健1968『下水内郡豊田村笠倉の弥生式遺跡』『高井』6：11-14
 中野市教育委員会2006『長野県中野市遺跡詳細分布図』
 中野市教育委員会2014『長野県中野市遺跡詳細分布図(改訂版)』



琵琶島遺跡基本層序

0 (1:1600) 40m



東区中央 西斜面南壁 (北より)



0 (1:20) 50cm

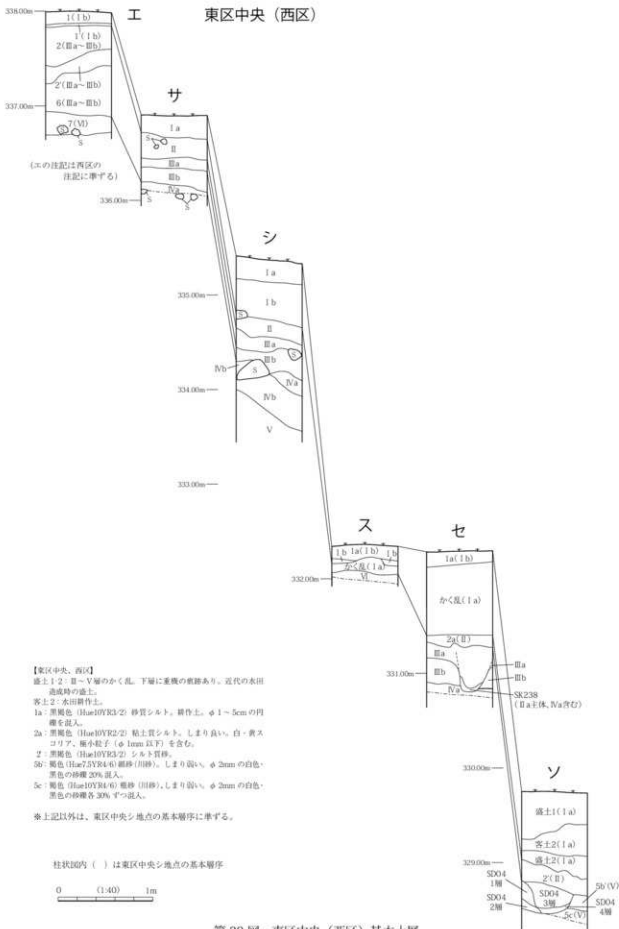
【基本層序】

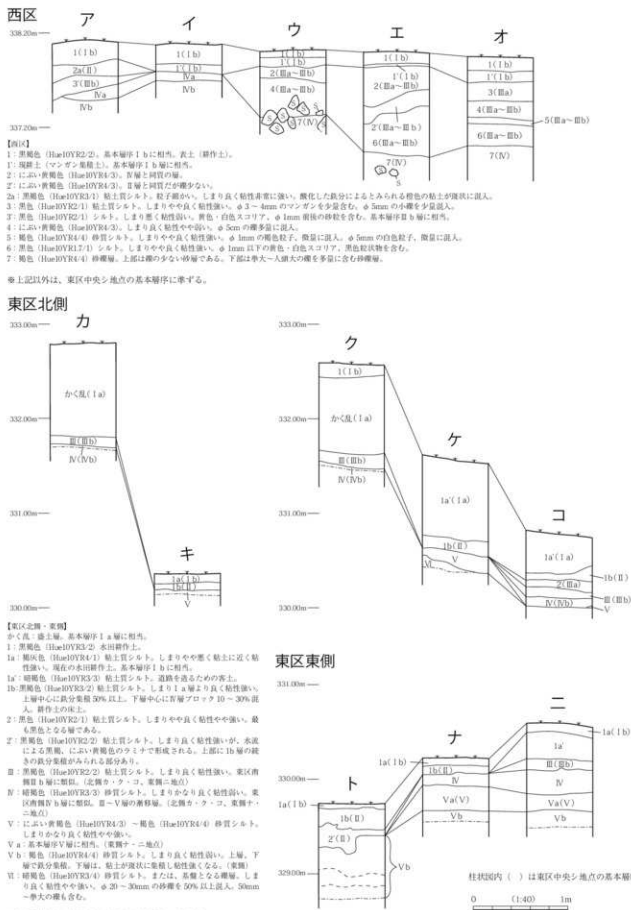
- I a: 暗オリーブ褐色 (Hae25Y3/3) 粘土。薄土層。しまり良く粘性強い。人頭大の礫混入。
 I b: 栗色 (Hae10YR2/1) ~ 栗褐色 (Hae10YR2/2) 砂質シルト。耕作土層。しまりやや良く粘性やや強い。傘大の礫混入。
 II: 栗色 (Hae10YR2/1) ~ 栗褐色 (Hae10YR2/2) 粘土質シルト。耕作土層。しまりやや良く粘性強い。混入物少なく、西側で白色・褐色スコリア散見。東側に傘大の礫混入。
 III a: 栗色 (Hae10YR1.7/1) 粘土質シルト。縄文~平安時代の遺物包含層。しまりやや悪く粘性強い。白色・褐色スコリア混入。
 III b: 栗褐色 (Hae10YR2/2) 粘土質シルト。縄文~古墳時代の遺物包含層。一部、平安時代の遺物検出。しまりやや悪く粘性強い。白色・褐色スコリア混入。φ40mm~傘大の礫混入。
 IV a: 暗褐色 (Hae10YR3/4) 粘土~砂質シルト(粘土上)。縄文~古墳時代の遺物検出。一部、縄文時代の遺物包含層。しまり良く粘性強い。φ20~30mmの円礫混入。
 IV b: 暗褐色 (Hae10YR3/3~3/4) 粘土質シルト~シルト質砂。III~V層の漸移層。しまり普通で粘性強い。φ10~20mmの円礫混入。
 V: 褐色 (Hae10YR4/4~4/6) 粘土質シルト~粘土。地山土。しまり良く粘性強い。φ40mm~傘大の礫混入。粗砂混入しサツク。
 (VI): 暗褐色 (Hae30YR3/4) ~ 近い栗褐色 (Hae10YR4/3) 礫層または砂層。しまり良く粘性強い。



東区中央 東斜面南壁

第37図 琵琶島遺跡の土層

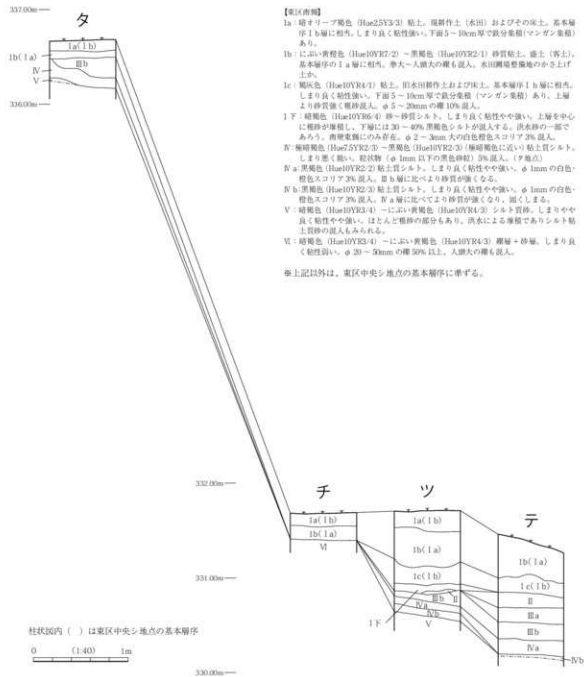




※上記以外は、東区中央し地点の基本層序に準ずる。

第39図 西区、東区北側・東側基本土層

東区南側



【土層】

I: 暗褐色 (Hae10YR3/4) シルト粘土質砂。しまり良く粘性強い。砂が80%以上を占める (西側の方が砂層が薄い。東へほど土壌化進む)。φ20~40mmの礫混入。

II: 暗褐色 (Hae10YR3/4) シルト粘土質砂。しまり良く粘性強い。φ2~3mmの白色風化礫10%混入。1層より土壌化進む。2層への漸移層である。

III: 黒褐色 (Hae10YR2/3) シルト粘土質砂。しまり良く粘性強い。φ2~3mmの白色風化礫10%混入。1層より土壌化進むが砂質強い。

IV: 黒褐色 (Hae10YR2/3) シルト粘土質砂。しまり良く粘性強い。φ2~3mmの白色風化礫20%混入。

III: 黒褐色 (Hae10YR2/2) 粘土質シルト。しまりやや悪く粘性強い。φ5~20mmの礫20%。白色風化礫5%混入。(北側ハ・ロ、東側M地点)

III a: 黒色 (Hae10YR1/1) 粘土質シルト。しまりやや悪く粘性強い。φ2~3mmの白色風化礫10%混入。距離大~傘大の礫。下層中心に20%混入 (西側に多い)。弥生中期遺物包含層。

III b: 黒褐色 (Hae10YR2/1) シルト。大~小礫20%混入。φ1~5cm黄褐色風化礫20%混入。(北側F・S地点)

III c: 黒色 (Hae10YR1/1) 砂質シルト。しまり良く粘性強い。φ2~3mmの白色風化礫30%混入。砂質強くなる。

III a: 黒褐色 (Hae10YR1/1) 砂質シルト。φ2~3mmの白色風化礫10%混入。傘大混入。下層中心に混入。縄文~後期遺物包含層 (上面一部分のみ)。基本層序IV a層の上部に相当。

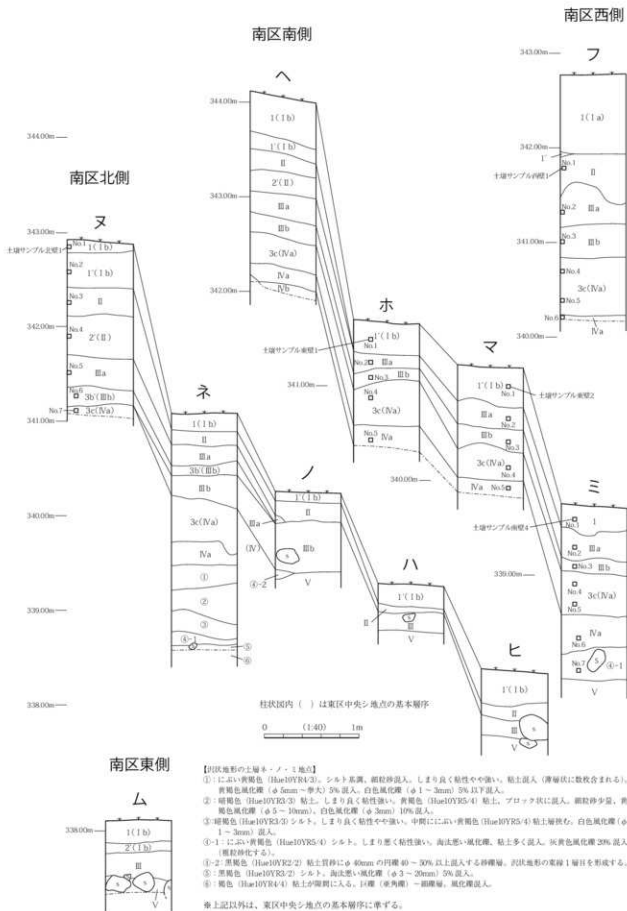
IV a: 黒褐色 (Hae10YR2/3) 粘土質シルト。φ2~3mmの白色風化礫5~7%混入。φ10mmの黄褐色風化礫2%混入。

IV b: 暗褐色 (Hae10YR3/3) 粘土質シルト。φ1~2mmの白色風化礫3~5%混入。

V: 暗層ににぶい褐色 (Hae10YR4/3) 砂質シルトが混入。φ5~20mmの礫。III層より多く含む。

※上記以外は、東区中央シ地点の基本層序に準ずる。

第40図 東区南側基本土層



第41図 南区基本土層